

令和8年度 1学年

== 専門教科 ==

食品創造科

教科	水産	科目	食品管理	単位数	2	学年	1	学科	食品創造科
使用教科書	食品管理1 (海文堂)		副教材	食品技能検定第1類解説書			対応資格	食品技能検定 第1類	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産物を主とした食品を安全かつ適切に管理するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技術	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
食品管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品管理に関する課題を発見し、食品管理に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	安全かつ適切な食品の管理を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食品管理に関する課題を発見し、食品管理に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	安全かつ適切な食品の管理を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 食品管理の概要 第1節 食品管理の意義 あらまし 第2節 食品管理の沿革	食品の品質や安全管理の重要性について理解している。	食品の品質や安全管理についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	食品の品質や安全管理について自ら学び、主体的に取り組もうとしている。
第2章 食品の成分変化 第1節 食品の成分と栄養 第2節 食品の機能性 第3節 流通中の品質変化	食品の貯蔵・加工・流通中におこる成分変化について、必要な知識や技術などの学習内容と関連付けて理解している。	食品の貯蔵・加工・流通中におこる成分変化についての課題を、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	食品の貯蔵・加工・流通中におこる成分変化について自ら学び、主体的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、考查毎に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) 後期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

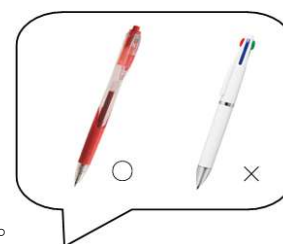
なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	○
小テスト	○		
ノート管理		○	○
感想文・レポート		○	○
発表・シェアリング		○	○
発言・行動観察			○

5 担当教員から

●授業を始める上での諸注意

～ 諸 注 意 ～



- ① 教室での座学を中心に行います。
- ② 教科書にラインを引くので、色ペン（や定規）が必要となります。
- ③ 教科書・ノート（ルーズリーフも可）は毎回使用するため忘れないこと。
- ④ 小テストの解答に赤ペン（不正防止のため1色だけのもの）が必要となります。
→ 前回ノートより10問の穴埋め問題を出題。採点不正は0点。
- ⑤ 無くても大丈夫ですが、ノリやハサミもあればまとめが楽になるはず。
→ プリントの余白削除や、ノートに合わせてカスタマイズ（1枚を半分ずつにする）
- ⑥ 授業中の名指しチェックは大減点されていると思って下さい（授業規律の遵守）。
→ 目に余るようであれば全体注意 → 個人注意 → 個人指導（呼び出し）
基本は全体に促す注意となります（自分のこととして捉えましょう）。
- ⑦ 提出物や点検物については、記入されたものの丁寧さや期限内の提出も重要となります。
やっつけ提出は評価外とし、再提出を求めるものとします。

※ 感想文とレポート（報告書含む）は違います。

感想文は、あくまでも自分が「…と感じた（考えた・思った）」ことを書く。

報告書は、「…をした」、「…が分かった」、「…と言って（書いて）いた」をまとめて書く。

レポートは、資料などから情報を得て、自信の考えを巡らせ、導き出した考察を書く。

●後期（年末付近）よりクロームブックを使用します。必要時に忘れることがないようにして下さい。

～ ノートの書き方 ～

- ① 必ず日付とコマ数を記入する（例：4/15 3h）。
- ② 「配られた小プリント」と「返却された小テスト」は、その日のうちにノートに必ず貼る。
- ③ ノート（ルーズリーフ）は、時系列でまとめる（日付が前後しないようにする）。
- ④ 休んだ分のノートは次の回までに書き写しておく。